

2012年度 小委員会活動成果報告

(2012年2月7日作成)

小委員会名	鋼構造塑性設計小委員会		主 査 名：玉井宏章 就任年月：2011年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 鋼構造運営委員会		委員長名：中島正愛 主 査 名：緑川光正
設 置 期 間	2011年4月 ～ 2015年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2010年に改定された『鋼構造塑性設計指針』の改定作業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・2011年度：改定内容の方針を議論する。 ・2012年度：基礎データの収集、各章の章立てを検討する。 ・2013年度：各章の改定原稿執筆者に原案作成をお願いする。 ・2014年度：改定原稿を完成させるとともに、鋼構造運営委員会および構造委員会に査読をお願いする予定である。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：玉井宏章(長崎大学) 幹事：五十嵐規矩夫(東京工業大学) 委員：高松隆夫(広島工業大学)・金尾伊織(京都工芸繊維大学)・聲高裕治(京都大学)・佐藤篤司(名古屋工業大学)・緑川光正(北海道大学)・廣重隆明(竹中工務店)・岩間和博(竹中工務店)		
設置WG (WG名：目的)			
2012年度予算	440,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	2010年度の鋼構造塑性設計検討WGの委員を中心に改定原稿執筆者を加えた小委員会を設置して活動を開始した。鋼構造塑性設計指針は次に示す4つの内容に分けられる。①塑性設計の概要、②座屈を考慮した部材設計、③接合部の設計、④塑性設計手順および設計例、である。 それぞれの内容について、責任者を決めて改定原稿の取り纏めをお願いした。委員会は奇数月に開催し、開催場所は東京である。概ね計画どおりに小委員会を実施した。 第1回(5月)：指針改定の目的、方針および内容の確認を行うとともに、改定作業計画を立案した。 第2回(7月)：①塑性設計の概要(責任者：高松委員)の改定内容について検討した。 第3回(9月)：②座屈を考慮した部材設計(梁)(責任者：金尾委員)の改定内容について検討した。 第4回(11月)：②座屈を考慮した部材設計(柱)(責任者：佐藤委員)の改定内容について検討した。 第5回(1月)：④塑性設計手順および設計例(責任者：広重委員)の改定内容について検討した。 第6回(3月)：改定の章立てと内容(素案)の取り纏めを行うとともに、2013年度の計画について検討する予定である。
委員会活動の問題点・課題	1. 旅費の委員負担を軽減するため、外部資金獲得を試みたが不調に終わっている。次年度も鋭意申請を行う。